

## 競技上の注意と確認事項

### 1 競技規則

本大会は、令和7年度「(公財)日本ハンドボール協会」競技規則によって行う。

### 2 競技会場

#### (1) 競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

- 鹿児島市郡山体育館 (40m×20m:1面) ※マルチボールで実施
- 吉田文化体育センター (40m×20m:1面) ※マルチボールで実施
- 桷志田体育館 (40m×20m:1面) ※マルチボールで実施
- 霧島市溝辺体育館 (40m×20m:1面)

※会場では、「両面テープ」のみ使用を認める。

#### (2) 別紙「会場使用上の注意」を遵守して行動する。

### 3 種別及び参加人数

参加人数は、監督1名・役員4名以内・選手16名以内の合計21名以内とする。

(生徒・選手を役員としてベンチ入りさせる場合は、JHAマイハンドボールの役員登録を行う)

### 4 競技方法

競技方法は、各県2位代表および3位代表によるトーナメント方式とする。

### 5 参加資格

参加資格は、実施要項「7-(1)~(3)」のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。※競技上の注意「16」参照

### 6 競技日程・時間

#### (1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

#### (2) 競技時間は、「前半25分-休憩10分-後半25分」とする。なお、同点の場合は、延長戦を行う。

準決勝までは、【トス～第1延長(前半5分-休憩1分-後半5分)～7mTC(5名)】の方法で行う。

決勝戦は、【トス～第1延長(前半5分-休憩1分-後半5分)～第2延長(前半5分-休憩1分-後半5分)～7mTC(5名)】の正規の方法で行う。

#### (3) 競技時間の表示は、加算式の電光掲示板を使用する。

#### (4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。

#### (5) 退場者の取り扱いは、以下の通りとする。

①退場者の番号と入場時間の表示は、女子会場では「電光掲示板」で表示することを基本とし、男子会場では「記録席上に用紙で表示」する。

②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することなく、問い合わせられても回答しない。

### 7 大会使用球

大会使用球は、(公財)日本ハンドボール協会公認球とする。

競技トーナメント戦では、両日とも男子はミカサ、女子はモルテンとする。交流試合では、相互持ち寄りとする。

【男子】ミカサ……男子2号球(HB240B-W) 【女子】モルテン…女子1号球(H1D4000-BW)

## 8 トス・ユニホーム

- (1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。  
その際、チーム役員の服装(色)及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、16(1)
- (2) ユニホームの確認は、第1試合が「試合開始30分前」とし、第2試合以降は前試合の前半終了後、ハーフタイム時に記録席前で行う。その際、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。  
希望調整がつかない場合は、チーム番号の大きいチームが変更する。
- (3) ユニホームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布などで覆わなければならぬ。  
その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
- ① チームは、ユニホームとして「シャツ・ショートパンツ(またはゴールキーパーのズボン)・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。
  - ② 番号の大きさ(高さ)は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
  - ③ 基調色として、半分以上が同色の物が望ましい。
  - ④ メーカーのロゴは、20cm<sup>2</sup>以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
  - ⑤ 背中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ(高さ)10cm以内とする。
  - ⑥ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして競技を続行できない場合は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合は、異なる番号でも問題ない。交代地域にいる別のプレイヤー(番号)のユニホームと交換することも許されるが、感染防止対策の視点から、エントリー外番号の別ユニホームを準備しておくことが望ましい。
- (4) ゴールキーパー
- ① チームで同色とする。
  - ② コートプレイヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。  
併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
- (5) 身につけられるものについて
- ① 短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ(アンダーウェア)は、短パンツの基調色と同色とし、チームで統一していれば着用できる。ただし、黒色は例外として、ユニホーム(短パン)の色とは関係なく使用できる。  
※ 例) チームのユニホーム(短パン)が白色の場合、白のサイクリングパンツをはいているプレイヤーと黒色のサイクリングパンツをはいているプレイヤーが混在していても差し支えない。
  - ② ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
  - ③ 長袖のアンダーシャツ・アームスリーブは、ユニホームに使用されている基調色と同色かつチームで統一された色であれば着用できる。
  - ④ すべてのプレイヤーは、靴下を履き、その色はチームで統一された色でなければならない。
  - ⑤ 膝下の装具(ふくらはぎのコンプレッション(加圧)サポーターなど)は、靴下と同色であれば着用できる。  
(国内では、足首の装具については、靴下と同色でなくてもよい)
  - ⑥ 複数の部位を覆うサポーターやメーカーのロゴが20cm<sup>2</sup>以上ものは、着用を認められない。
  - ⑦ 肘や膝の装具(身体の1か所のみを保護する装具)の色は問わない。
  - ⑧ 金具入りなど、敵や味方を問わず、他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認めない。
  - ⑨ 眼鏡及びスポーツゴーグルなどを使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。  
ただし、金属製のフレームなどについては使用できない。
  - ⑩ 詳細は、「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。

## 9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名を含むチーム役員5名以内、選手16名以内の合計21名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、3月18日(水)までに変更申請を提出したことで決定する。

変更申請が完了した内容については、一覧用紙を会場にて、プログラムと一緒に配付する。

(4) 登録証の取り扱いについては次の通りとする。

① トスの際には、TO に登録証を提出する。

提出不可、または不備(写真添付なし等)があった場合は、試合に出場・参加することはできない。

② TO が、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。

試合中は、TO が登録証を管理し、試合終了後に TO から両チーム代表者に返却される。

③ 不格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。

(5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・D・E カード」を着用し、試合終了後に返却する。

チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

## I0 公式記録用紙

(1) 記録は、公式記録用紙に記載する。(ランニングスコアなし)

(2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任をもって確認し、サインをする。

(3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

## I1 交代地域規定

☆交代ライン：「センターラインから4.5mの範囲まで」

☆コーチングゾーン：「3.5mラインを始点とし、アウターゴールラインから8mの範囲まで」

(1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。

競技開始後は、ボールに触れるなどを含めてボールの使用を禁止する。

(2) 飲料水は、飲み口の細い「個人の容器」を使用し、カップの使用を禁止する。

感染予防対策として、チーム内の回し飲みも禁止する。

(3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。

詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。

(4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。

ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。

(5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。

トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。

(6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。

ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

(7) 観客席等からの選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。

## I2 チームタイムアウト

(1) 1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。

また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。

(2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならない。コーチングエリアを越えたら、提出を躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合はグリーンカードをチームに戻す。

(3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。

(4) グリーンカードは、TO が直接受け取ってよい。

## I3 休憩時間(ハーフタイム)

休憩時間のコート使用は、次の試合を行うチームが練習する。コートの練習使用時間は、「9分」とし、減算で表示する。後半開始までの残りの1分間は、コート整備・ゴールやネットの点検などの時間とする。

## I4 テクニカルオフィシャル、裁定委員会

(1) 本大会は、テクニカルオフィシャルを配置する。

全日程において、テクニカルオフィシャルを2名(MO 兼務 TK:タイムキーパーを担当する TD、及び SK:スコアキーパーを担当する TD)で対応する。

MO・TD は、競技委員長のもとで、競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため、審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。

(2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長・副審判長などとする。

なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

## I5 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

次の試合のチーム役員・選手は、前半が終了するまで、または試合終了後に両チームのあいさつが終了するまではフロアへの入場を禁止する。前試合の競技中に次試合の役員・選手が、フロアに入場し、試合を観戦したり、練習をしたりすることがあってはならない。

## I6 臨時トレーナー

(1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。トスの際には、必ず審判・TO に申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。

(2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療や手当などを受けることができる。

(3) TO が、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

## I7 表彰

競技2日目「鹿児島市郡山体育館」と「楢志田体育館」で、男女それぞれの準決勝の試合終了直後に3位表彰(賞状授与)を行う。

また、決勝戦の試合終了後に、男女それぞれ2チームの1位・2位の表彰を行う。

## I8 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

## I9 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームとすれちがいながら挨拶を交わし、相手側交代地域に行って、相手役員にあいさつをする。

## 20 観客席

今大会は、スポーツ競技活動を通した教育活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを徹底させる。また、観客席から選手への指示や競技役員への暴言等がないスポーツマンシップに則った大会になるよう観客席(応援)の態度にも気を配る。